

2025

3.5 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_gXnYfK9RRem8ldMNDmiklw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

新型コロナウイルスの 国際的分配から考える公衆衛生危機対応



Key Words

公衆衛生危機

新型コロナウイルス

COVAX

国際保健外交

若林 真美 准教授

アジア・オセアニア研究教育機構

2024年10月より九州大学アジア・オセアニア研究教育機構の准教授（海外実装部門コーディネータ）。大阪大学で看護学を専攻し、同大学医学系研究科で修士（医科学）と博士（医学）を取得。社会疫学を専門とし、大学院時代にWHOやUNICEFでのインターンシップやオーストラリア国立大学での研究留学を経験。企業で開発コンサルタントやグローバルヘルス戦略コンサルタントを務め、名古屋大学で「アジアにおけるWell-being実現のための女性リーダー育成プログラム」に従事。国立国際医療センターのiGHPでは、飲酒問題の社会疫学、ODA trackerの開発、医薬品アクセス&デリバリーの研究に従事。2020年に外務省に派遣され、国際保健政策やCOVAXに携わり、その後UNICEFブラジルで脆弱な子どもたちへのワクチン接種プロジェクトを担当。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による世界的な公衆衛生危機下において、国際社会における「ワクチンへのアクセスの不平等」が深刻な問題となりました。その課題に対応するために、国際機関を中心に「COVAX（COVID-19 Vaccine Global Access）」という新しい国際協調の枠組みが設立されました。COVAXとは、COVID-19ワクチンを複数国で共同購入し、低所得国も含めて公平に分配するための国際的な枠組みです。本セミナーでは、COVAXとはどのような仕組みであり、どのような実績を残したのか、またその課題は何かを振り返ることで、今後の公衆衛生危機対応において、どのような対応が必要なのかについて考えます。